

炎症性腸疾患の新治療

司会 滋賀医科大学消化器内科 安藤 朗
東京医科歯科大学消化器内科 渡辺 守

炎症性腸疾患 (IBD) の臨床に生物学的製剤などの明確な標的分子を定めた治療法が導入された結果、従来の治療戦略や治療目標が大きく変化しつつある。さらに、この動きは新たな標的分子を模索する基礎研究の推進役ともなった。しかし、これまでの生物学的製剤が決して万能ではなく、さまざまな問題点を持つことも明らかになりつつある。本ワークショップでは、現在の IBD 治療の限界、問題点を踏まえた上で、それらを打破するような新たな発想・視点に基づいた治療法について基礎、臨床の両面から提示いただき、活発な討論をおこないたい。